

2024 年度東海連合支部総会において講演会を開催

5月12日(日)、名古屋市「ウインクあいち」にて東海連合支部総会にて開催。講演は、群馬大学大学院理工学府環境創成部門 准教授 原野安土(はらのあづち)先生により「エアゾルの吸湿性と地球温暖化」のテーマで実施。

「エアロゾル」は、大気等に浮遊するマイクロメートルレベルの微粒子で固体だけではなく液体の微粒子も存在する。例えば、空の雲を構成する水滴・氷滴、また中国からのPM2.5、浅間山の噴煙、街中の排気ガス成分等の微粒子。それら微粒子と地球環境温暖化との相关性、大気の種類雲の発生原理、降雨制御への応用展開等について解説された。



講演中の原野先生

今後は液滴のマイクロ結晶粒子生成制御と我々の生活環境との関係、さらにタンパク質の単結晶構造解析等による生体機能解明にも展開するとのことである。

講演は映像・図表等のスライドを使い大変分かり易く解説されたので、身近な気候変動などの環境現象を理解する上で大変勉強になりました。



桐生那智祭り(原野先生から拝借)

また、桐生の夏祭りの風物詩八木節音頭を原野先生が学生たちと元気いっぱい楽しんでいる様子がビデオで紹介された。

原野先生の今後の益々のご活躍をお祈りして講演の幕を閉じました。

講演会はハイブリッドにより開催され、参加者は会場 28 名及びオンライン 7 支部参加 13 名による 41 名であった。

(文責 阿部桂三)